

奈良言友会会報

まほろば



多武峯 談山神社

第26号

令和元年6月発行

雑誌「科学」の思い出

山崎貴浩

先日、テレビのバラエティー番組「奇跡体験！アンビリバボー」を見ていると「奇跡と呼ばれた科学本」というのが放送された。強烈なリーダーシップを持った編集長が子ども向けの学習雑誌に新境地を開いていくという内容だった。日本の科学振興の礎にするという信念のもと、子どもたちに夢を与えるとしてもよい付録を付けて「科学」という雑誌の販売を始めたとのことである。番組の最後では、比較的若い日本のノーベル賞受賞者や理系の学者達がこの「科学」から科学に興味を持ち始めたと思い出話を語っていた。

私たちの世代が小学生の頃、月に一度、業者が学研の「科学」と「学習」という小学生向けの学習雑誌を学校まで売りに来て、我々は列に並んでそれを買ったのであった。両雑誌とも豪華な付録が付いていて、子どもが付録に釣られて購入するのは今も昔も同じである。値段は当時で150円～200円くらいであったろうか。私も「科学」が好きで親にお金をもらって購読させてもらっていた。一時期は両方買うことも許してくれた。今思えば家計の事情でこの雑誌を買えない同級生もたくさん居ただろうと思う。ある意味残酷な風景でもあった。自分の親に感謝するとともに、このような学校での雑誌販売を認めていた当時の教育委員会も勇気があったなと思う。さて、「科学」は理科系に、「学習」は文系に重きを置いた編集になっていた。私はその当時、将来は地質学者になることを夢見ていた科学少年で、どちらかという「科学」を買うことが多かった。付録も「科学」の方が興味を引いた。あれから50年近く経つが、その時買った「科学」の付録の幾つか（温度計とか鉱物標本とか）を奇跡的にいまだに持っている。ただし、「科学」を買うには私には一つの試練があった。「かがく」という言葉が言いにくかったのだ。昼休みの休憩時間の短い時間に販売業者が玄関のピロティなどに来て、生徒はそこに並んで順番に「科学」を買うのか「学習」を買うのかを告げて売ってもらうのであるが、吃音の私には「科学（かがく）」は非常に言いにくかった。今でも変わらず「科学」は言いにくい単語である。反対に「学習」は言いやすい言葉だった。私の順番になると緊張して「かがく」と言えず「学習」を買ってしまったことが何度もあった。それで親に両方買わせてくれと頼み込んだのかも知れない。「両方」とか「どちらも」と言えまいからだ。小学校4年生の時だったろうか。その月は1冊分のお金しか買えなかったのだが、硬貨を握り締めて列に並び自分の番が来るのを待った。その月の「科学」の付録はどうしても欲しいものだった。それで緊張しながら「科学（かがく）」と言ったのだが、案の定、「か、か、か、か、かがく」と吃ってしまった。後ろに並んでいた多くの同級生、上下級生が大笑いしたのは言うまでもない。私の吃音がクラスを越えて広く学校中に知れ渡ってしまった瞬間であった。救いだったのは、業者のおじさんが笑いもせず淡々と科学を渡してくれたことだった。

テレビを見ながら「科学」と「学習」にまつわるこの苦く懐かしい記憶を久しぶりに思い出した。今振り返るとあのとき勇気を出して、たとえ吃っても「科学」を買った自分を誉めてあげたい気持ちである。

クラスメートに御互いに特に理科が好きだったことで仲良かったK君という友人がいた。将来は一緒に地質学者になろうと言い合いながら「科学」の付録で遊んだものだった。そのK君は京都大学の理学部を出てホントに地質学者になってしまった。テレビの言うように「科学」の影響は実に大きかったのである。

下田小学校、上牧第二小学校通級指導教室合同「ことばの交流会」に参加して

報告 後藤 文造・田中 知樹

H31年3月20日(水)、上牧第二小学校ペガサス教室にて、下田小学校・上牧第二小学校通級指導教室合同のことばの交流会がありました。子供さん10数名をはじめ、先生方・保護者の方(20人弱)、そして私たち奈良言友会メンバー5名と吃音のある青年1名が参加し、大変貴重な機会を持つことができました。

まずは、全員で「握手でこんにちは」。できるだけ多くの人とペアになり、じゃんけんと自己紹介。緊張も和らぎ、盛り上がりました。次に保護者チームと子どもチームに分かれました。

① 奈良言友会と親との対話

奈良言友会から前川、天羽、後藤の3人と、吃音がある青年(30代)の4人が、親との対話に関わりました。約1時間の時間は、冒頭後藤から奈良言友会の話をして頂き、前川さんと青年から体験談を話して頂きました。体験談は、吃音ならではの心の動きを表現するもので、とても親の皆さんにとって少しでも伝わっていればと思います。体験談後は、天羽・前川チーム、後藤・青年チームに分かれて、親とのワークをしました。親からの感想や今は悩んでいないけれど、将来が心配などの声が多く聞かれました。また、流暢性形成の言語訓練とは具体的に何をしているのか、どういう意味があるのか等の質問もあり、最後は天羽先生からことばの教室で行われている流暢性形成の訓練の考え方や概要の説明や、今は悩んでなくても必ず悩む時が来るから、親として吃音を気にしなくなるより、子どもの状況に関心を持ち続けたいですね!とメッセージを送って頂きました。

② 先生方、奈良言友会(三島・田中)と子ども達とゲーム

プレイルームにて、「かまぼこじゃんけん」「Tボール」「ドッジボール」をしてみんなで動き回り、汗を流しました。小学校が違うので初めて顔を合わす子どもさんもいましたが、ゲームという遊びの時間を通じて、先生も子どもさんも私たちも全員一緒に楽しめたことが良かったと思います。

休憩中、三島さんや田中から、新学期を迎えるにあたり、自分は今こんなこともあったあんなこともあったなど、吃音についてのお話をしました。新学期に向けて環境が変わることへの不安や楽しみといった体験談を、時々つまりながら、身ぶり手ぶりも交えて、私たち自身のことばで伝えました。私たちの話よりも「早く遊ぼう、遊ぼう」といった感じてでしたが(笑)。みんな最後まで大きいボール・小さいボールを投げたり蹴ったり、とても笑顔にアクティブな時間でした。

1時間30分の交流会でしたが、先生方をはじめ保護者の皆さま、貴重な時間を頂き大変ありがとうございました。お世話になった森先生、ありがとうございました。

吃音があってもみんなで協力して生活しやすい取り組みを今後も続けていきたいと思いました。

例会報告

〇12月16日(日) 13:30~16:30 参加4名

第1部 スピーチプレゼン

担当・報告 堀 茂

次の4つのテーマから選んでスピーチしてもらいました。

- ・身近な出来事 ・面白かった本、映画、テレビなど ・気になるニュースについて ・言いたいこと ・なんでもOK

私は、楽しい会話をしたいと永らく思ってきましたが、話すことへの不安が強くて、会話を楽しむことができませんでした。みなさんの中にも、雑談が苦手とか、会話を楽しめないという人がおられるのではないのでしょうか。今回は、4つの話題の中からみなさんにスピーチをしてもらいましたが、それぞれのスピーチを「とっかかり」にして、みなさんの間で楽しい会話ができたらいいのでは、と思い企画しました。

今回は、二人の方が、大阪や京都の他の言友会を訪問して、例会に参加した様子を話してくれましたが、積極的でいいなと思いました。

<参加者の感想>

〇近況を話すことができ、心がゆったりとなれけ気がします。 M・S

〇新しい人が入って、話しかけてよかったです。 M・G

〇はじめて参加して、皆さんとても良い方で安心して話すことができました。 K・R

第2部 吃音とつきあってきた私の体験

担当・報告 堀 茂

7月例会で、吃音を治そうとするのをやめて、吃音をもって人生をやっていこうと決心したところまでお話ししました。今回はその後、どのように吃音とつきあって来たかをお話ししました。以下、項目に分けて述べます。

- 1 吃音矯正の学校で頑張ったけれども治らなかったの、吃音をもって生きて行こうと決心した。しかし、人前でどもりたくない気持ちは変わらず、「どもって何か悪い」と気負ってみても、どもりそうなときは、言わずじまいになることが少なくなかった。
2. 吃音を減らす、あるいは目立たないようにどもるようになることで会話がスムーズになるようにした。身振り手振りなどをしながら話す、板書しながら話すなど、からだを動かしながら話す。どもりそうなことばを言いやすいことばに言いかえて話す、言いやすいことばを、どもり易いことばの前にもってきて話すなど、いろんな方法を使い、その場その場をどう切り抜けるか、どうしのぐか、使えそうなものは何でも使う、ということやってきた。
- 3 どもりやすい状況にならないように工夫。

私の場合は、緊張が高くなる時、気持ちが引いている時、不用意に発言するときなどにどもりやすいので、以下のような臨機の対応に心がけた。

- ・正面に向きあって話すとき緊張するので、対話するときは、正面に向き合わないようにする。
- ・「言いにくいことですが」と前置きしてから話す。
- ・沈黙が長くないように意味のない話などで場をつなぐようにする。
- ・集まりで話すときは、原稿を作り、よく練習し原稿を持って話す。
- ・どもりそうな時は、いったんやめて、言うことに問題がないかチェックする
- ・その他

上にのべたような臨機の対応によって、何とかするという安心感ができて、どもる怖れが減った。

どもらないようにすることよりも、目的とすることに意識を集中して取り組む方が、うまくいくことが多いと気づいた。

4 まとめとして

以上のようなお話をしたのですが、みなさん特に話し方の工夫に興味をもたれたようですが、私の述べた

ことは、決して、このようにしなさいというのではなく、それぞれ、自分に合った仕方を工夫してやっていたらよいと思います。私自身は、今では、どもることでも困ることはほとんどありません。

特によかったと思うのは、「ありがとう」「ごめんなさい」など、日常のちょっとしたことばが、自然に出るようになったことで、人とかかわりがずいぶん楽になったと思います。

しかし、どもることでは困らなくなったけれども、コミュニケーションというところで見ると、困ること、悩むことは決して減っていません。思ったことが、スーッとことばで出るので、つい余計なことを言ってしまうたり、「失礼なことを言ってしまった」と後悔することはしょっちゅうです。よくどもっていた頃は、余計なことを言うのを、どもることでもストップをかけていたと言えるかも知れません。今は、私は、自分のしたいことがより良くできるように、また、よい人間関係をつくっていくためにも、コミュニケーションをよくしていきたいと思っています。

(この内容は2018年12月20日奈良市鳥見小学校での「ことばの交流会」でお話した私の体験談をもとにしたものです。堀)

<参加者の感想>

○「緊張のでなく、工夫しよう」というキャッチフレーズを聞き、普段、私は工夫して喋っていないので、その方法もあるのだなと、ちょっとマネをしてみようと思いました。M・S

○堀さんの体験どもらないことが聞けてよかったです。M・G

○話し方の工夫などアドバイスをいさだけて良かったです。実際ためしてみようと思います。K・R

○ 1月13日(日) 13:30~16:30

第1部 弓道とアーチェリーの違いとは? 参加6名 担当・報告 澤辺 佑一

もう後1年位で東京オリンピックが開催され、アーチェリー競技も行われます。そこで皆さんには少しでも興味を持ってもらいたくて講義しました。弓道とアーチェリーは似ているようで実は全然違う競技。僕は弓道を中学1年~高校3年の6年間やりました。どちらかと言えば弓道は礼儀作法、精神集中を重要視した武道、アーチェリーは的中を重要視したスポーツ競技。ぼくは6年間弓道をやったお陰で集中力が凄くつきました。少々の騒音でも全然気にならなくなりました。

弓道を見る分には、柔道や剣道のように凄くカッコいいです。でもやるとなるとアーチェリーと比べ物にならないくらい難しいです。僕は中学、高校で出会った先輩、先生、それにコーチにも恵まれたのか上達するのが早く、中学2年に団体に近畿大会、高校2年に団体に全国大会に出場、高校3年に個人戦で県1位になりました。

弓道をやり始めてからはアーチェリーにも興味を持ちました。だからオリンピックのアーチェリー競技も結構気になります。この講義を聞いて少しでも興味を持ってもらえば嬉しいです。

<参加者の感想>

○未知なる弓道の知識に触れることができ、興味が湧きました。T・T

○アーチェリーや弓道が分かりやすく説明でよかった。M・G

○弓道とアーチェリーの違いを詳しく説明していただき、スポーツ・武道に関する知識を広げることができました。M・K

○弓道について、詳しく知れてよかった。M・S

○弓道の話は大変興味深かった。澤辺さんの話し方は堂々としていてよかった。弓道への愛着と誇りが感じられました。H・S

○みんな弓道のことをいろいろ知ってほしかったので聞いてもらえてよかった。少しでも興味をもってもらえたらよかったと思います。S・Y



「ピアカウンセリング」は聞き慣れない用語ですが、ひらたく「話し合い」といったほうが良いかとも思います。吃音やコミュニケーションのことで、それぞれが、経験する困ることや悩むことを出しあって、話し合う中で、何か気づくことがあればよいと思います。その気づきが、困ることや「生きづらさ」を少しでも良くする手がかりになるかも知れませんが、自分の問題を話すことで、気持ちか楽になることもあるでしょう。また、話し合いでは、臆せず、気軽に話せる雰囲気大切です。

今回は、みなさんリラックスしてよく話しされていたと思います。

その中で、新しく参加した学生の方が、日頃、経験する悩みや困難を率直に話されました。私には、その切実さがじかに伝わってきて胸が苦しくなるのを覚えました。

年を重ねてきた私自身、「瞬間過ぎれば熱さを忘れる」と言われるように、若い頃の体験の記憶も薄れ、「そのとき自分はどうか？」も思い出せないことが多くなっていることに気づきます。言友会の活動では、年かきのお話が、その経験を若いひとに伝えていくことも大切なことだと思います。私は、自分の体験の記憶をたどって、どのように、その場を乗り切ったか、あるいは乗り切れなかったなど自分の対応を思い起こして考えていきたいと思っています。

<参加者の感想>

○今（この年）になって「吃音山」の意味が良く理解できる。

若い青年層へのアプローチはどうしたらいいものか？ T・T

○最後の話はとてもわかりにくかった。 M・G

○ピカカケリガ ということで自分の体験、経験が他の人にもすぐに役立つわけではありませんが、何かの参考になれば良いかと思います。 M・K

○自分のことを話して、幸甚でありました。 M・S

○大学生活やこれからの生活の悩みを話せてよかった。次回以降は名前を言う練習や前半内容を仕切ったりしてみたい。 Y・Y

○談話会？でみんなでいろんな話ができてよかった。 S・Y

02月3日 13:30~16:30

第1部 認知症についてのお話 参加6名

担当 田中知樹 報告 堀茂

職場で認知症の人と直接関わっておられる田中さんから、認知症の理解と接し方について、図などを使って、分かり易く、具体的にお話していただきました。認知症では記憶力が障害されますが、私たちは記憶を頼りに生活しているので、これが障害されると、生活に大きな支障がでるとのこと。私自身もこの頃、直近の記憶が抜けることがちょいちょいあって、もたもたすることがあり、記憶の大切さを実感しているのですが・・・。

認知症の人に、忘れたことを思い出すよう促すと、プレッシャーとなって混乱し、却って逆効果になることがあるという話もお聞きしました。できないことをさせようとする逆効果になることがあるというのは、一般に障害や行動上の問題にもあることですが、吃音でもそれは言えると思います。

認知症の人は、思うようにいかなくて不安やあせりを感じがちなので、いかに安心感をもてるように関わるかが大切とのことでした。

認知症は他人事ではなく、身近に起こる問題であり、ひいては私たち自身の問題でもあります。今回は、田中さんには大変役立つよいお話をしていただいたと思います。（報告 堀）

<参加者の感想>

○とてもわかり易かったと思いました。 M・G

○認知症の正しい知識を少しでも、理解していただけたら、うれしいです。 T・T

○身近な事なのに知識がなかったので、分かり易く、楽しく説明していただいてよく分かりました。 A・I

○認知症の対応についての事がよく分かりました。田中さんは毎回、説明が上手で感心させられます。 I・H

○実際に認知症の家族と関わっている人が実行できる関わり方のお話だったと思います。 H・S

○認知症のひとのこともっと理解してあげたいと思った。 S・Y

言友会とは関係が深い言語聴覚士（ST）の実態をとりあげました。この資格は、できてからまだ20年ほどの新しい資格であり、一般的には浸透していないかも知れません。しかし、病院には不可欠の存在で、主に言語障害、聴覚障害、摂食嚥下障害の検査、リハビリの担当を担っています。養成学校も増えつつあり、男女年令を問わず、門戸が開かれているようです。また、病院以外でも老人介護施設や小児のリハセンなど幅広い範囲で必要とされています。今回は実際にSTの方に話をしてもらおうと思っています。

<参加者の感想>

○市田さんの言語聴覚士やきつおんのことなど話されてよかったと思います。M・G

○市田さんの話す内容が分かり易く参考になりました。T・T

○息子もお世話になっていた方の職業なのにあまりよく知りませんでした。吃音に特化した方がもっと増えるといいなと思いました。A・I

○言語聴覚士の制度的なことや吃音の子どもへの実際の対応などの話が聞けてよかった。H・S

○言語聴覚士は最近聞く名前だけど、案外、古い資格で、以外に多くの人を持っているんだなと思った。S・Y

〇3月31日 花見例会 参加7名

担当・報告 山崎

毎年、恒例となってきました花見例会ですが、今年は藤原宮跡で開催することになっていました。藤原宮跡では桜と群生する菜の花が同時に咲くのが見られることからお花見スポットとして全国的に有名になってきています。ただ、当日は風が強くてこの季節に珍しく肌寒い天候となりましたので、急遽場所を変更し、明日香村の万葉文化館近くの休業している古民家カフェを借り切ったの宴会?となりました。8年前の奈良言友会立ち上げ時の吃音フォーラムに参加して下さったSさんが奥さんと1歳のお子さん連れで参加して下さいました。お酒も入り、いろんな話が出て、なかなか盛り上がりました。そして宴会のあと、みんなで甘樫丘に登り、春の大和平野の絶景を楽しみました。また、来年も花見例会を開催したいものです。



平成30年度奈良言友会総会を開催しました。

平成31年3月3日(日)午後3時より、奈良市ボランティアインフォメーションセンターにて行いました。平成30年度の活動報告、決算報告がなされ、承認された後、平成31年度の活動計画書が審議されました。主な承認事項は次の通りです。

1 役員の改選

- 市田浩志さんが副会長、幹事を辞任。新たに三島学さんを幹事に選任した。
- 平成31年度は以下の体制ですすめる。
会長 堀 茂 (会計兼務)
副会長 田中 知樹
幹事 天羽 郁子
幹事 後藤 文造
幹事 澤辺 佑一
幹事 三島 学
幹事 山崎 貴浩

2 会則の改正

会則6条と8条4項を以下のように改正した。

- 第6条 会の円滑な運営を図るために、本会の役員として、会長、副会長、幹事、会計を置く。
- 第8条第4項 購読会員及び学生会員は年間1,500円の会費を納入しなければならない。

3 平成31年度 活動計画

(1) 行事

- 花見例会 3月31日(日) 藤原の宮跡にて、担当 山崎さんで行う。
- 第8回ことばの親子交流会 7月27日(土) 生駒山麓公園で、天羽さんを中心に行う。
- 6月 青丹学園での後藤さんの講義にコラボして会員が参加する。

(2) 広報

例会の予定を澤辺さんから後藤さんに連絡して、フェイスブックに載せるようにする。

奈良言友会の例会

奈良言友会 naragenyukai@hotmail.co.jp

日時：毎月第1日曜日 13:30~16:30

場所：奈良市はぐくみセンター (JR奈良駅西口 南へ歩3分)

奈良言友会連絡先	市田 浩志 (いちだ ひろし) TEL090-1228-6867 E-mail piropiroichi@yahoo.co.jp
	田中 知樹 (たなか ともき) TEL090-9253-0914 E-mail tomoki.t-1126@ezweb.ne.jp

奈良言友会HP <http://nara-genyukai.jimdo.com/>

奈良言友会会報誌「まほろば」 編集発行 山崎貴浩